

○再整備・再配置の方向性

豊岡第三地区

(1) 地域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
地区センター	既存施設（公民館）の活用を前提とする。 ※地区センターに移行しない施設は地区での意見交換を踏まえて活用方法を検討する。	1 黒須公民館を活用する案	【メリット】 ・黒須公民館を中心とする範囲に、地区内の住宅が多く収まるので、多くの住民の利便性が高くなる。 【デメリット】 ・丘陵地にある住宅地（高倉地区）からの利便性が悪くなる。
		2 高倉公民館を活用する案	【メリット】 ・丘陵地にある住宅地の方々の利便性を確保できる。 【デメリット】 ・地区内の居住者が比較的少ない地区への配置となるため、地区全体の住民にとっては利便性が低下する。
		3 別の場所へ移転して新設する案	【メリット】 ・現状や課題を踏まえ、配置バランスに係る課題を解決することが見込まれる。 ・施設設置後、移転ができるため業務の休止期間が生じない。 【デメリット】 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・対象エリアが変わらないため、最寄り施設までの距離や時間が維持できる。 【デメリット】 ・2館を存続させた場合、1館分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。	
	複合化しない場合の想定	【メリット】 ・現在のサービスは変わらず受けることができる。 【デメリット】 ・地域の拠点施設として、機能を充実させることができない。 ・各種行政手続きや福祉、地域包括支援センター、自治振興といった地域に必要な機能のワンストップ化につながらない。	

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
小学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 黒須小学校を活用する案	【メリット】 ・住民の8割が丘陵の下部で生活しているため、多くの児童が通学時、丘陵を昇降する必要がない。 【デメリット】 ・地区の北端に立地するため、通学距離が大幅に延びる児童がでてくる。
		2 高倉小学校を活用する案	【メリット】 ・校舎の耐用年数が25～30年程度残存しているため、当面既存施設を活用することができる。 【デメリット】 ・住民の8割が丘陵の下部で生活しているため、多くの児童の通学距離が大幅に延び、通学時に丘陵を昇降する必要が出てくる。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・通学区等の見直しがなければ、通学距離（時間）が長くなることはない。 【デメリット】 ・2校を存続させた場合、1校分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。 ・児童数が減少し、学校の規模が大幅に縮小する可能性がある。	
	複合化しない場合の想定	【メリット】 ・原則、敷地内へ児童しか入れないため、現行の教育環境が確保される。 【デメリット】 ・今後求められる学校と地域住民の連携強化や世代間交流の機会を増やすといった、複合化によるメリットを活かすことができない。	
学童保育室	小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図るとともに、小学校に合わせて統合する。	1 黒須と高倉学童保育室を統合して小学校に複合化する案	【メリット】 ・統合することにより、施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・待機児童が生じないようにするためには、施設規模の拡大が必要になる可能性がある。

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
中学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 黒須中学校を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・地域区分と通学区の不整合について調整する必要がある。
保育所	施設が老朽化しているため、豊岡地区内の3つの保育所（豊岡・黒須・高倉）を統合して、新たに施設を整備する。	1 既存施設がある土地を活用する案	【メリット】 ・市の所有地の場合、新たな用地取得が不要である。 【デメリット】 ・工事期間中、施設の休止や代替施設が必要である。
		2 別の場所へ移転して存設する案	【メリット】 ・施設設置後、移転ができるため業務の休止期間が生じない。 【デメリット】 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・施設の選択が残ることとなる。 ・現在の定数が維持できる。 【デメリット】 ・3園を存続させた場合、1園分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。	
地区体育館	既存施設の活用を前提とする。	1 黒須地区体育館を活用する案	【メリット】 ・既存施設をそのまま活用することができる。 【デメリット】 ・地区の西端に存在するため、配置バランスが悪い。
老人憩いの家	施設更新は行わず、地域の自治会等への譲渡を検討し、施設機能は、他の地域対応施設に移転する。ただし、高齢者の利便性が著しく低下する場合は、一部施設の継続も検討する。	1	【メリット】 ・譲渡することにより施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・高齢者の利便性が低下する可能性がある。

(2) 広域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性
武道館・弓道場	機能を維持し、長寿命化を図る。